

# 令和元年度 教育事務の点検・評価報告書 (平成30年度対象)



竹富町中学校サマースクール



竹富町小学校集団宿泊学習

竹富町教育委員会

# 報 告 書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、平成30年度における竹富町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の結果を報告する。

令和元年8月

竹富町教育委員会

## ■地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## ■竹富町教育委員会で扱う事務は、おおむね次のとおりである。

- 1 町立学校等の設置及び統廃合に関すること。
- 2 学級教材、教具の整備に関すること。
- 3 町立学校等の施設、設備及び管理、備品に関すること。
- 4 教育財産の管理及び財産台帳の整備保管に関すること。
- 5 教育委員会事務局及び教育委員会の所管する職員の任免その他、人事に関すること。
- 6 文化財に関すること。
- 7 町史編集に関すること。
- 8 学齢児童、生徒、園児の就学猶予並びに転退学、その他学籍に関すること。
- 9 教科書の採択、給与事務に関すること。
- 10 町立幼稚園に関すること。
- 11 学校給食に関すること。
- 12 社会教育に関すること。
- 13 生涯学習及びスポーツの振興に関すること。
- 14 青少年の健全育成に関すること。

# 目 次

はじめに	3
教育委員会委員名簿	4
外部評価委員(学識経験者)	4
教育主要施策体系	5
<b>教育委員会の活動</b>	
(1) 教育委員会の概要	6
(2) 教育委員会の会議開催状況、付議内容	7
(3) 教育委員の情報収集状況	9
(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置	9
(5) 教育費の状況	10
<b>平成30年度 教育事務の点検評価</b>	
1 点検評価対象年度	11
2 点検評価内容	11
(1) 幼稚園、学校教育の充実	
(2) 社会教育・スポーツの充実	
(3) 伝統文化の保存と継承	
(4) 町史編集	
(5) 教育行政の充実	
3 点検評価の方法	12
<b>事務事業点検評価</b>	
点検評価の結果一覧表	13
・事務事業点検評価シート	14
<b>教育事務点検総合評価</b>	
教育委員会の機能充実	45
幼稚園・学校教育の充実	45

## はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)の一部が改正され、平成27年4月1日より施行されています。

教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図ることが目的とされております。

そこで、法律第1条第3項の規定に基づき、本町の教育及び文化の振興に関する大綱を次のとおり定めました。

その基本理念・基本目標は、「日本最南端の大自然と文化のまちづくり(自然の生きるまちづくり、文化の息づくまちづくり、未来にはばたくまちづくり)」を町政運営の基本姿勢のもと、活力ある人材育成の現実、生きがいのある豊かな生涯学習社会の実現に向けた教育及び文化の振興を目標に教育行政を推進してまいりました。

- 自ら学ぶ意欲と豊かな心の育成
- 子育て支援などの課題への対応
- スポーツの振興
- 伝統文化の継承発展及び文化活動の支援

この大綱の期間は、平成27年度から平成30年度までの4年間としていますが、この期間の途中において、必要に応じて内容の見直しを行うことができるものとなっております。

平成30年度は多くの事務事業を実施し、効果的な教育行政の推進と、教育活動の状況に関し、町民への説明責任を果たすため、教育事務の点検及び評価を行い、この報告書にまとめました。

報告書は、点検・評価の客観性や中立性を確保するため、各担当課職員が事業執行概要等を評価シートで作成し「事務点検評価委員会」による内部評価を行い、その後、外部評価委員(学識経験者等2名)が担当職員にヒアリングを実施し、各事業の評価をしていただきました。

その結果、おおむね計画どおり事業は実施されているが、改善する部分も多々あるとの厳しい指摘も受けました。この評価を(外部評価)を真摯に受け止め、今後の教育施策の企画立案や効果的な教育行政の推進・活動に努めてまいります。

この教育事務の点検評価報告書は、竹富町議会に報告するとともに広く公表することが義務付けられており、役場ホームページにも掲載いたします。

■教育委員会委員名簿（平成30年度在籍）

（平成31年3月31日現在）

職名	氏名	任期	
教育長	仲田 森和	平成30年10月1日～令和3年9月30日	任期3年 (2期目)
委員 (教育長職務代理)	島村 賢正	平成27年10月1日～平成31年9月30日	任期4年 (1期目)
委員	花城 正美	平成26年10月7日～平成30年9月30日	任期4年 (2期目)
委員	上勢頭 輝	平成29年4月1日～平成31年3月31日	(前任者の残任期間) (1期目)
委員	仲新城 理香	平成30年10月1日～令和4年9月30日	任期4年 (1期目)

■外部評価委員(学識経験者)

職名	氏名	任期	
委員	佐事 安弘	令和元年8月1日～令和2年3月31日	任期1年 (1期目)
委員	石垣 幸子		任期1年 (1期目)

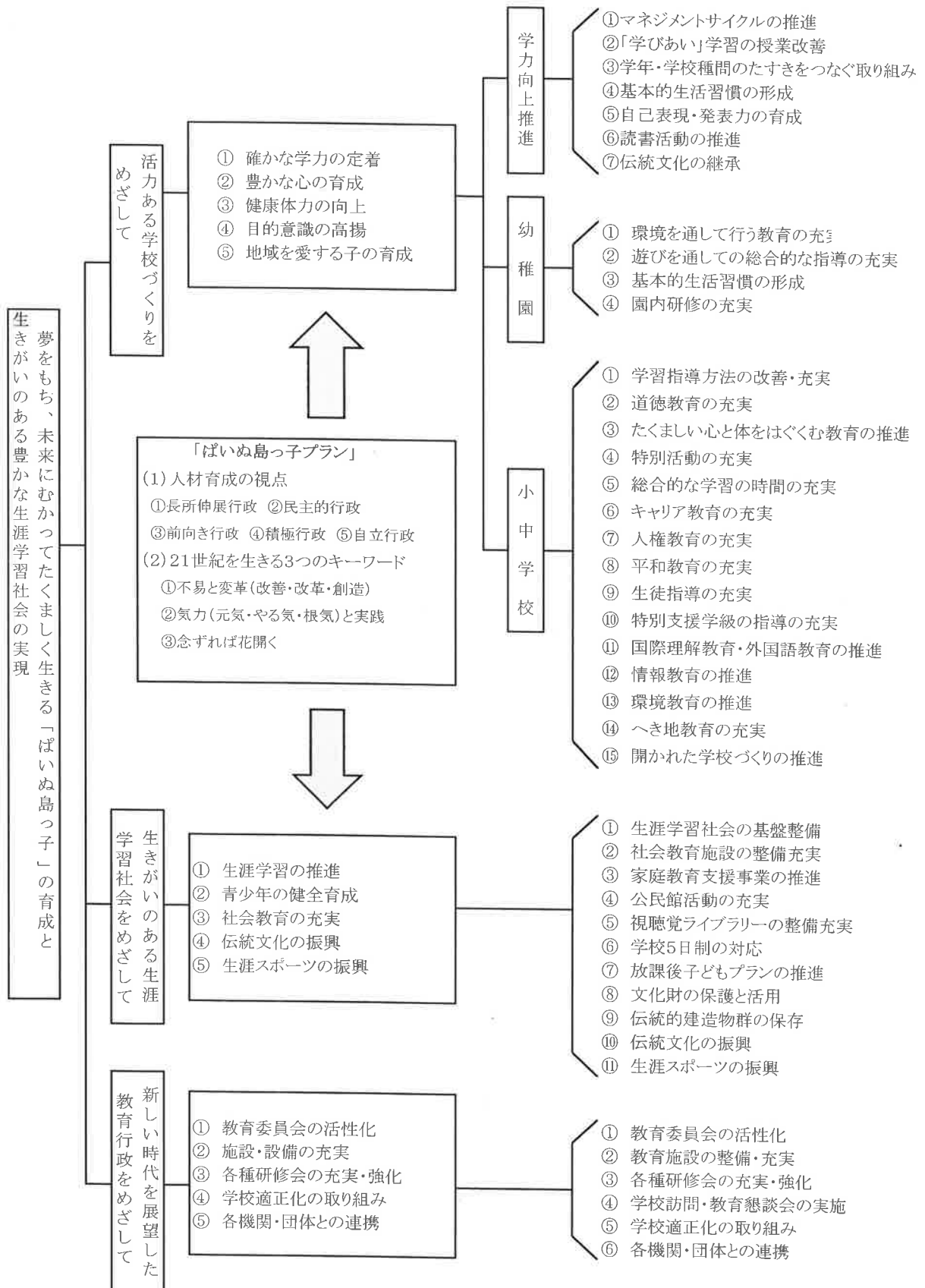
# ■教育主要施策体系

竹富町教育委員会

【目標】

【努力点】

【努力事項】



## 1 教育委員会の活動

### (1) 教育委員会の概要

教育委員会制度の改革により、平成27年10月1日より教育委員長と教育長を一本化した「教育長」が設置され、教育長と委員(4名)で組織する合議制の実行機関であります。

また、総合教育会議が首長と協議・調整を行うが、最終的な執行権限は教育委員会に保留されている。

教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表(会議の主宰者、具体的な事務執行責任者、事務局の指揮監督者)となり、その任期は3年となっている。

### (2) 教育委員会の会議等の状況

本町教育委員会においては、奇数月1回の定例会と随時開催の臨時会の開催と自主研修を実施し、事務局と連携しながら施策を推進してきました。

さらに、学校訪問や各種行事、視察等を積極的に行うなど、教育行政の推進に努めてきました。

また、沖縄県市町村教育委員会連合会や八重山地区市町教育委員会協議会の総会・研修会等へ参加し、県内各地区の教育委員と意見交換を行い、教育委員会が直面する課題解決のため、教育行政について研修を実施してまいりました。

地方教育行政法第26条及び「教育長に委任する事務等に関する規則」第2条の規定に基づき46件審議しました。

それから、首長と教育委員会が協議・調整することにより、両者が教育行政の方向性を共有し、一致して執行にあたるのが可能になった総合教育会議ですが、平成30年度においては未開催となりました。

平成30年度の会議開催、付議事件及び内容は次のとおりであります。

	開催数	付議件数
定例会	6回	42件 (0)
臨時会	2回	4件 (0)
総合教育会議	0回	0件 (0)
計	8回	46件 (0)

( )はその他件数

■会議開催状況、付議内容

開催回数	開催日	番号	議案名	結果
第4回 (定例会)	5月31日	報告第15号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第16号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第17号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第18号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第19号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更協議書の回答について	承認
		報告第20号	臨時代理について	承認
		報告第21号	臨時代理について	承認
		報告第22号	竹富町社会教育委員の委嘱について	承認
		議案第10号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区等保存審議委員の委嘱について	可決
第5回 (定例会)	7月25日	報告第23号	平成30年竹富町学校評議員の委嘱について	承認
		報告第24号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第25号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第26号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第27号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第28号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第29号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		議案第11号	竹富町就学援助規則の一部を改正する規則について	可決
第6回 (臨時会)	8月14日	報告第30号	竹富町史編集委員の委嘱について	承認
		議案第12号	平成31年度竹富町中学校教科書用図書の承認について	可決
		議案第13号	竹富町立学校職員服務規程の一部を改正する規程について	可決
第7回 (定例会)	9月20日	報告第31号	環状線内側保全地区の温泉及び宿泊施設新築工事の竹富町伝統的建造物群保全地区等保存審議会の答申について	承認
		報告第32号	保存物件のアスファルトルーフィング使用可否の答申について	承認
		議案第14号	重要文化財旧与那国家住宅指定管理の指定について	可決



開催回数	開催日	番号	議案名	結果
		議案第15号	竹富町立幼稚園預かり保育条例施行規則の一部を改正する規則について	可決
第8回 (定例会)	11月29日	報告第33号	(株)竹富島黒潮観光からの通知書に対する回答について	承認
		議案第16号	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮管理運営について	可決
		議案第17号	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮管理運営規則について	可決
		議案第18号	竹富町ふるさと応援奨学金給付条例施行規則の一部を改正する規則について	可決
平成31年 第1回 (定例会)	1月29日	報告第1号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第2号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第3号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第4号	臨時代理について	承認
第2回 (臨時会)	2月19日	議案第1号	平成31年度県費負担管理職人事異動発令について	承認
第3回 (定例会)	3月25日	報告第5号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第6号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第7号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第8号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第9号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第10号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第11号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第12号	伝統的工法及び施設配置の検討について	承認
		報告第13号	臨時代理の承認について	承認
		議案第1号	竹富町社会教育指導員の委嘱について	可決
		議案第2号	竹富町社会教育委員の委嘱について	可決
		議案第3号	竹富町通学路交通安全プログラムの一部改正について	可決
		議案第4号	竹富町通学路安全推進会議設置要綱の一部改正について	可決

### (3) 教育委員の情報収集状況

教育委員会は、施設等の視察、学校訪問、事務局からの教育行政情報収集、専門知識収集のための研修会等への参加、ほか市町村教育委員会の情報収集及び課題解決の方向性模索のための教育委員会連合会及び教育長協会などへの参加などを通して教育関連情報の収集に努めた。

	内 容	件 数
1	課題施設等の視察	0件
2	学校等支援訪問(施設)	小中学校8、幼稚園1、 共同調理場1
3	研修会等への参加	6回(郡内2、県内3、県外1)
4	学校等行事への参加	入学式、卒業式、運動会、 学習発表会、その他
5	会議等への参加(教育長)	39回(町内31、県内4、県外4)
6	その他 (教育委員会月報、時報市町村教委)	

### (4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置

課名	職名	係名	人員
総務課	課長1 課長補佐1	総務係	2 (1)
		施設係	2 (1)
教育課	課長1 課長補佐1	教育係	2 (7)
社会文化課	課長1 課長補佐1	社会教育係	1 (1)
		文化財係	3 (1)
		町史編集係	1 (2)
合計	6		11 (13)

( )は再任用、臨時、ALT等

## (5) 教育費の状況

### ■教育費の推移

項目/年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
教育費	1,031,218 千円	1,033,551 千円	1,144,295 千円	1,438,787 千円	1,793,248 千円
1人当たり教育費	252,193 円	248,390 円	275,867 円	326,848 円	425,041 円
各年度3月末人口	4,089 人	4,161 人	4,148 人	4,402 人	4,219 人

### ■平成30年度教育費の内訳

#### (歳入)

(上段は繰越分)

1	分担金及び負担金	86 千円
2	使用料及び手数料	7,054 千円
3	国庫支出金	21,931 千円
4	県支出金	575,790 千円
5	財産収入	221 千円
6	寄付金	0 千円
7	繰入金	47,093 千円
8	諸収入	15,326 千円
9	町債	259,800 千円

#### (歳出)

(上段は繰越分)

1	総務管理費	41,712 千円
2	沖縄振興特別推進交付金事業	57,979 千円
3	教育総務費	117,413 千円
4	小学校費	471,971 千円
5	中学校費	210,901 千円
6	幼稚園費	295,716 千円
7	社会教育費	125,147 千円
8	保健体育費	141,842 千円
9	文教施設災害復旧費	76,680 千円
10	基金費	0 千円
		2,165 千円

### ■平成30年度の主な事業(教育関連)

#### (1) 幼稚園・学校教育の充実

- |                              |                                 |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 新任教職員歓迎の集い                 | 10 友好都市対馬市ステイターズツアー(町政施行70周年事業) |
| 2 ホームステイ事業(町政施行70周年事業)       | 11 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営           |
| 3 斜里町児童交流派遣(町政施行70周年事業)      | 12 幼稚園預かり保育                     |
| 4 南ぬ島々探検交流プロジェクト(町政施行70周年事業) | 13 特別支援教育支援員配置事業                |
| 5 学力向上推進                     | 14 外国語指導助手(ALT)の配置              |
| 6 英語サマースクール                  | 15 学校給食担当者研修会                   |
| 7 小学校集団宿泊学習                  | 16 児童・生徒の心と体を育む支援事業             |
| 8 ICT支援員派遣事業(一括交付金事業)        | 17 離島高校生修学支援事業                  |
| 9 家庭学習支援モデル事業(一括交付金事業)       | 18 ふるさと応援奨学金                    |

#### (2) 社会教育・スポーツの充実

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1 放課後子ども教室委託事業     | 4 球技大会          |
| 2 生涯学習委託事業(社会教育学級) | 5 やまねこマラソン大会    |
| 3 社会教育団体育成補助事業     | 6 全国離島交流中学生野球大会 |

#### (3) 伝統文化の保存と継承

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| 1 文化財の美化・保全(一括交付金事業) | 4 伝統文化活動の推進 |
| 2 埋蔵文化財の保護           | 5 芸術文化活動の振興 |
| 3 伝統的建造物群保存地区の景観保全   |             |

#### (4) 町史編集

- 1 町史編集事業

#### (5) 教育行政の充実

- 1 学校施設等の維持管理

# 令和元年度 教育事務の点検評価

1 点検評価対象年度 平成30年度

2 点検評価内容

点検評価内容については、教育事務点検評価委員会による内部評価及び学識経験者等による外部評価とし、「幼稚園・学校教育の充実」、「社会教育・スポーツの充実」、「伝統文化の保存と継承」、「教育行政の充実」について行った。

## (1) 幼稚園・学校教育の充実

- 1 新任教職員歓迎の集い
- 2 ホームステイ事業(町政施行70周年事業)
- 3 斜里町児童交流派遣(町政施行70周年事業)
- 4 南ぬ島々探検交流プロジェクト(町政施行70周年事業)
- 5 学力向上推進
- 6 英語サマースクール
- 7 小学校集団宿泊学習
- 8 ICT支援員派遣事業(一括交付金事業)
- 9 家庭学習支援モデル事業(一括交付金事業)
- 10 友好都市対馬市スタディツアー(町政施行70周年事業)
- 11 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営
- 12 幼稚園預かり保育
- 13 特別支援教育支援員配置事業
- 14 外国語指導助手(ALT)の配置
- 15 学校給食担当者研修会
- 16 児童・生徒の心と体を育む支援事業
- 17 離島高校生修学支援事業
- 18 ふるさと応援奨学金

## (2) 社会教育・スポーツの充実

- 1 放課後子ども教室委託事業
- 2 生涯学習委託事業(社会教育学級)
- 3 社会教育団体育成補助事業
- 4 球技大会
- 5 やまねこマラソン大会
- 6 全国離島交流中学生野球大会

## (3) 伝統文化の保存と継承

- 1 文化財の美化・保全(一括交付金事業)
- 2 埋蔵文化財の保護
- 3 伝統的建造物群保存地区の景観保全
- 4 伝統文化活動の推進
- 5 芸術文化活動の振興

## (4) 町史編集

- 1 町史編集事業

## (5) 教育行政の充実

- 1 学校施設等の維持管理

## (6) 教育事務点検総合評価

- ・ 教育委員会の機能充実
- ・ 幼稚園・学校教育の充実

### 3 点検評価の方法

評価については、事業種目ごとに点検評価シートを作成し、評価基準を設定して、複眼的視点による評価を試みた。評価における評価基準及び総合評価基準については次のとおりとする。

#### (1) 評価基準

点数	妥当性	効率性	有効性	今後の展開
4	教育委員会が関与する妥当性が非常に高い。	投入コストに比べ活動量が非常に高い。	成果が非常に高い。	事業規模拡大が望まれる。
3	教育委員会が関与する妥当性が高い。	投入コストに比べ活動量が高い。	成果が高い。	事業規模の維持が望まれる。
2	教育委員会が関与する妥当性が低い。	投入コストに比べ活動量が低い。	成果が低い。	事業規模の縮小が望まれる。
1	教育委員会が関与する妥当性が非常に低い。	投入コストに比べ活動量が非常に低い。	成果が非常に低い。	廃止又は休止が望まれる。

#### (2) 点数

評価	妥当性・効率性・有効性・今後の展開の合計点
A	14点 ～ 16点
B	11点 ～ 13点
C	8点 ～ 10点
D	4点 ～ 7点

## 教育事務点検評価

令和元年度教育事務(平成30年度事業)点検評価の結果一覧表

主要施策	事業名	担当課	内部評価	外部評価	ページ
幼稚園・学校教育の充実	1 新任教職員歓迎の集い	教育課	A	A	14
	2 ホームステイ事業(町政施行70周年事業)	〃	A	A	15
	3 斜里町児童交流派遣(町政施行70周年事業)	〃	A	A	16
	4 南ぬ島々探検交流プロジェクト(町政施行70周年事業)	〃	B	B	17
	5 学力向上推進	〃	A	A	18
	6 英語サマースクール	〃	B	B	19
	7 小学校集団宿泊学習	〃	A	A	20
	8 ICT支援員派遣事業(一括交付金事業)	〃	A	A	21
	9 家庭学習支援モデル事業(一括交付金事業)	〃	B	B	22
	10 友好都市対馬市スタディツアー(町政施行70周年事業)	〃	A	A	23
	11 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	〃	A	A	24
	12 幼稚園預かり保育	〃	B	B	25
	13 特別支援教育支援員配置事業	〃	B	B	26
	14 外国語指導助手(ALT)の配置	〃	A	A	27
	15 学校給食担当者研修会	〃	A	A	28
	16 児童・生徒の心と体を育む支援事業	総務課	A	A	29
	17 離島高校生修学支援事業	〃	A	A	30
	18 ふるさと応援奨学金	〃	A	A	31
社会教育・スポーツの充実	1 放課後子ども教室委託事業	社文課	A	A	32
	2 生涯学習委託事業(社会教育学級)	〃	B	B	33
	3 社会教育団体育成補助事業	〃	A	A	34
	4 球技大会	〃	B	B	35
	5 やまねこマラソン大会	〃	A	A	36
	6 全国離島交流中学生野球大会	〃	A	A	37
伝統文化の保存と継承	1 文化財の美化・保全(一括交付金事業)	〃	B	B	38
	2 埋蔵文化財の保護	〃	B	B	39
	3 伝統的建造物群保存地区の景観保全	〃	B	B	40
	4 伝統文化活動の推進	〃	A	A	41
	5 芸術文化活動の振興	〃	A	A	42
町史編集	1 町史編集事業	〃	C	C	43
教育行政の充実	1 学校等施設の維持管理	総務課	B	B	44
教育事務点検総合評価	・ 教育委員会の機能充実	-	-	-	45
	・ 幼稚園・学校教育の充実	-	-	-	45

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	新任教職員歓迎の集い	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	0 千円	0 千円	0 千円
事業概要	新年度、竹富町内へ赴任した教職員を対象に竹富町の教育全般についての説明や激励を行う。		
(1)対象	平成30年度4月1日付けで、竹富町内小・中学校へ赴任する本務教職員		
(2)目的	町内へ赴任する教職員へ町教育委員会の教育概要を知らせながら、激励することにより、スムーズに新しい教育活動をスタートさせる機会とする。		
(3)事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.主催者あいさつ(教育長)</li> <li>2.歓迎のあいさつ(町長)</li> <li>3.学校教育の概要(教育課長)</li> <li>4.竹富町と琉球大学の教育連携について(蔵満逸司琉球大学教職大学院)</li> <li>5.竹富町におけるゴミ条例に関する説明(町民課係長)</li> <li>6.新任職員紹介(各学校)</li> <li>7.教育委員及び教育委員会事務局職員紹介(総務課長、教育課長、社会文化課長)</li> </ol>		
(4)成果目標	年度スタートにあたり、新しく赴任する教職員に竹富町の概要及び教育施策の概要を伝え、本町教職員としての自覚と使命感を高める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> ① 日本最南端の大自然と文化の町竹富町の概要と離島へき地校の極小規模校を抱える本町教育施策の概要を直接伝えることで、本町教職員になることの自覚と使命感を高めることができた。 ② 本町の各島々に赴任する教職員を温かく歓迎し、教育長をはじめ教育委員、教育課職員と一堂に顔を合わせることで、今後の協力体制構築のための基盤づくりができた。 ③ 昨年の反省を生かし竹富町の概要を映像を使って紹介することができた。		
	A	<b>【課題等】</b> ○赴任者が一堂に顔合わせをする機会として、予算の関係上、教育事務所で辞令交付のある4月1日に設定している。4月1日は昇任校長が県で辞令交付のため出席できない現状となっている。	
外部評価	・本町の特異性、教育施策の概要等々を直に伝え、町内に赴任する教職員を激励することは、高く評価できる。 ・4月1日に本町に赴任する教職員が一堂に会することができず、とても残念である。しかし、予算化して日を改めて本事業を実施する必要は、認めない。 ・今後は、本町の特異性や教育施策等々をDVDに納め、各校に配り、新年度スタートに確認する事を進めます。		
A			

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	ホームステイ事業	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	1,860 千円	3,044 千円	3,150 千円
事業概要	町内に在学する中学2年・3年生を対象に、希望者を募り海外(米国ワシントン州シアトル)へ約3週間ホームステイを行い、異文化体験や英語の語学学習を行わせる。		
(1) 対象	町内在学の中学2年・3年生を対象		
(2) 目的	異文化体験を行い、外国語の学習と実践を通じて、国際協調における真の平和樹立に貢献できる人材育成と、21世紀を生きるスキルとしての国際感覚を身につけることを理念に海外研修を行う。		
(3) 事業内容	沖縄タイムス海外ホームステイ事業の中に組み込み、町内中学生を対象に募集を行い、面接試験を課した後、5名を23日間の日程で米国ワシントン州シアトルに派遣し、現地の受け入れファミリーの中でホームステイを行う。		
(4) 成果目標	研修終了後に提出する報告書や報告会において、異文化理解や語学(英語)の学習が身につけているか。さらに、諸調査等で英語の平均正答率が伸びているかを判断する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】(個人の感想から) ①アメリカの人間性に間近に触れて、迷う前にまず前に出てみるということが大切だと思った。アメリカに行って青年海外協力隊をやりたいという気持ちが強くなった。 ②ホームステイを通して、伝えること伝わることの喜び、自分の意志をしっかりと持つこと、現地の人々の温かさを学んだ。考え方が違っていても相手の住んでいるところや文化を尊重し理解しようということが大切だと思った。 ③他国の文化や価値観を肌で感じ取った体験を、これからの将来に生かし日本の未来を創るために精一杯頑張りたい。 ④日本と違う文化や習慣、仲間と協力し、コミュニケーションをとることの大切さを知った。 ⑤竹富に来る外国人と話すときは、アメリカで経験したことを思い出してきちんと伝えたい。この体験をこれからの中学校生活、その先の高校生活にも生かしたい。 ⑥感想文を新聞に掲載し、ホームステイの内容を多くの人に周知することができた。		
	A	【課題等】 ①派遣人数増員(5名)の継続。	
外部評価	・本事業は、海外での異文化体験、生きた英語交流で国際感覚を身に付け豊かな知見と今後の学習意欲につながっているものと考えます。また、ALT配置等の取り組みは高く評価できます。 ・本事業の継続を希望します。(継続にあたり派遣人数は、基本枠5名で良いのでは?)		
	A		



## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町制施行70周年記念/斜里町竹富町姉妹町盟約45周年記念児童交流派遣事業		担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額	
	0 千円	1,937 千円	0 千円	
事業概要	竹富町制施行70周年記念/姉妹町盟約45周年記念事業として、斜里町と竹富町の児童生徒が互いの町を訪れ、両町の自然・文化に触れたり交流したりして友好を深める。			
(1)対象	町内小学校5・6年生(各校より代表1名)			
(2)目的	本町の児童が斜里町を訪問し、異なった自然と文化に直に触れ、体験することにより、視野を広げ知識を深める人材育成の機会とし、斜里町の児童生徒との交流を通して絆を深め、今後の両町の更なる発展と豊かな町づくりを期する。			
(3)事業内容	<p>【受入】7/27～7/31知床ウトロ学校の8・9年生が西表島・竹富島を訪問</p> <p>【訪問】2/12～2/17※前泊含む町内小学校5・6年生代表 計11名</p> <p>【内容】町長表敬訪問、施設見学(博物館、自然センター、世界遺産センター)、自然体験(流氷ウォーク、雪合戦、雪だるま作り、スノーシュー、ジェットスキー、流氷フェス)、児童交流(知床ウトロ学校、博物館キッズ・子ども司書)、名所巡り(オシンコシンの滝、天に続く道)</p>			
(4)成果目標	・斜里町を訪問し、異なった自然や文化に直に触れ、体験や交流を通して視野を広げ知識や友好を深めることができたか。			
【点検評価】	<p>評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価</p> <p>A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価</p>			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	<p>【成果】児童の感想より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の自然との中で生きる強い人々のすがたに感動した。この体験を生かして私も竹富町の自然や文化を大切に、多くの人々に伝えられるようにしたい。</li> <li>・この体験からお互いの文化や歴史を尊重し合い、認め合うことの大切さ、自然に触れる楽しみを改めて強く感じた。この体験を忘れずに日々の生活に生かしていきたい。</li> <li>・帰りたくない気持ちになるくらい斜里町が大好きになった。これからも姉妹町としてずっと深いきずなをつなげて文化などを広めていけたらいいなと思った。</li> </ul> <p>【課題等】</p> <p>① 幸い、怪我人も病人も出てないが、前・後泊含めると6泊7日と派遣期間が長く、一般的に考えると小学生には負担が大きい。また、派遣期間中、1週間学校を休まないといけないことも課題である。</p>			
A				
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「百聞は一見に如かず」、教科書で寒い地方の自然や人々の生活の様子を学び、交流を通して実感理解を深める事ができました。</li> <li>・児童の感想から、素晴らしい交流事業であることが実感出来ました。今後も課題を克服し継続して下さい。</li> </ul>			
A				

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町制施行70周年記念 南ぬ島々探検交流プロジェクト	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	0 千円	3,117 千円	0 千円
事業概要	竹富町内の全中学生が自分の住む島以外の2島を1泊2日で巡り、3年間で町内のほとんどの島を訪問することを通して竹富町や他の島々、そして自分の島のよさを発見・再認識する機会とする。		
(1)対象	竹富町内全中学生		
(2)目的	竹富町内の全中学生が町内各島々の歴史、文化、史跡、自然等にふれることを通して、竹富町や自分の住む島のよさを再認識し、竹富町出身としての自信と誇りをもってそれぞれの進路に進んでいけるようにする。		
(3)事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校ごとに1泊2日で2島を巡る。</li> <li>・宿泊は可能な限り町内の宿泊施設とする。</li> <li>・日程、訪問先の島、訪れたい場所、活動内容等は各学校で計画する。</li> <li>・各学校の計画の下、行程表の作成、宿泊・乗船・配車は旅行社に委託する。</li> <li>・旅行に係る支払は竹富町教育委員会が事業終了後に一括して旅行社に支払う。</li> </ul>		
(4)成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問終了後に提出する報告書や各校での発表会等において、竹富町の島々の自然や文化の素晴らしさを知ることができたか、郷土への愛着と誇りをもって行動しようというような意識の変化がみられるかを判断する。</li> </ul>		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】		
内部評価	<p>【成果】生徒の感想より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この体験を通して他の島の魅力を知り、さらに自分の島との違い、そして自分の島のよさも再認識できた。</li> <li>・小浜島より小さな島なのに歴史や遺産が多くありすごいと思った。</li> <li>・普段は行かない所、行った事のない所に行くことができ貴重な体験ができた。</li> <li>・これまで西表島には行った事はあったが、それぞれの場所を詳しく見たり学んだりする機会は少なかったので今回とてもよい体験学習ができた。</li> <li>・同じ竹富町に住んでいても、知らないことがたくさんあるのだなと思った。今回のような学習を通して自分たちの島だけではなく、竹富町の島々をもっと知り、学んでいきたい。</li> </ul> <p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画当初は3年間継続の事業計画であったが、70周年記念事業ということで次年度の予算がないため、事業を継続できない。今後の予算確保が大きな課題である。</li> </ul>		
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町制施行70周年記念事業として実施されたが、事業目的・内容は、とても良い。自分達のふるさと竹富町について学び知ること、自分達の足下に目を向けることは、今後取り組むべき学習内容であると考え。</li> <li>・周年記念事業で終わらせる事無く、町内の中学生は、3年に1度「ふるさと学習」として体験できるように継続、充実させてほしい。</li> <li>・自分の育った島や町の自然・文化等々の良さ、特性について自信を持ってアピールできる町民育成につながる。</li> </ul>		

# 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学力向上推進	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	1,499 千円	1,471 千円	1,650 千円
事業概要	町内9つの地域の各公民館長を中心として、地域における学力向上推進委員会を設置し、学校・家庭・地域・行政が連携し、子ども達に「生きる力」を育み、将来に夢を持ち目標を立て努力し、社会の人材育成を推進していく。		
(1)対象	幼児・児童・生徒、教職員、PTA、地域		
(2)目的	学校、家庭、地域、行政が一体となって、幼児・児童・生徒一人ひとりに「生きる力」につながる「確かな学力」の向上を図る取組みを推進する。		
(3)事業内容	1.町学力向上推進委員会総会及び実践報告会 2.各地区学力向上推進委員会総会及び実践報告会 3.教育講演会 4.標準学力検査、中3実力テスト実施 5.授業力向上訪問等の指導助言		
(4)成果目標	・竹富町学力向上推進要項に基づき、「ばいぬ島っ子プランⅣ」を推進し、9つの各推進委員会の取組充実を図る。 ・全国学力・学習状況調査・県学力到達度調査等で全国平均・県平均正答率を上回る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> ①9つの各地区において、公民館長を中心とした学力向上推進委員会総会・実践報告会が継続開催され、地域の物的資源・人的資源と結びついた地域総ぐるみの学力向上が推進された。 ②幼稚園担当指導主事が新たに一人配置増になり、学校訪問では幼稚園に対し現場の視点に立ったきめ細かな指導助言を行うことができた。 ③全国学力・学習状況調査・県学力到達度調査等で、小学校では国語A・理科Aにおいて、中学校では全ての調査教科において全国平均を上回ることができた。また、今年度実施された理科においては小・中とも全国平均を大きく上回り、児童生徒の理科への興味関心の高さが伺えた。 ④小中連携・一貫教育により、小・中学校教職員の交流や研究活動が活発に行われ、授業改善や児童生徒理解につながった。また、小中学校の教育課程の体系化につながっている。		
	A	<b>【課題等】</b> ① 新学習指導要領完全実施に向けた教育課程編成の工夫改善 ② 地域に開かれた教育課程(多様な人々とのつながりや地域・社会と結びついた授業づくり)の見直し(体験型から地域課題解決型(主体的・対話的で深い学び)への転換) ③ 自律教育(自分で考え、自分で判断し、自分で行動することができる)の徹底	
外部評価	・公民館を中心とした地域学力向上推進委員会の取り組みは、地域に根ざし、高く評価できる。毎年、全国学力学習状況調査では、全国平均を上回り着実に成果を上げている。今後は、県平均をも上回るよう取り組んでほしい。 ・幼児教育にも力を入れ、幼稚園担当指導主事を配置したことは評価できる。 ・小規模校の利点を活かし、個々の児童生徒が輝く教育をお願いしたい。		
	A		

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	英語サマースクール	担当課	教育課
事業費	29 年度実績額	30 年度実績額	R1 年度予算額
	119 千円	119 千円	211 千円
事業概要	本年度より、外国語に興味のある中学2・3年生を参加対象とし、英語学習の活動を中心としたプログラムを編成・実施。1泊2日の間は基本、オールイングリッシュで様々な活動に参加し、ALTや各校の英語教師の支援の下、英語に対する興味関心やスキルの上達を図る。		
(1) 対象	外国語に興味のある竹富町内中学2・3年生		
(2) 目的	外国語に興味のある町内各中学校2・3年生が一堂に会し、積極的に英語で会話をし生活をする中で、英語に対する興味関心を高めるとともに英語によるコミュニケーション能力を高める。		
(3) 事業内容	プログラム(オールイングリッシュで活動) ・三色綱引き ・自己紹介交流活動 ・ピニャータ作り ・星講座 ・歌 ・クイズショー ・星空観察 ・班会議、班長会議 ・島文化交流 ・ピニャータ鑑賞 ・ピニャータ割り		
(4) 成果目標	①島外の同級生と交流を持たせることによって、コミュニケーション能力を育成する。 ②言語活動を通して、英語に興味を持たせ、使うことの楽しさを味わわせる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①1泊2日の間、町内他校の同級生やALT(外国語指導員)、英語教師らと積極的に英語で会話をし交流を図ることで英会話力を高める良い機会となった。 ②対象を外国語に興味のある生徒に絞ったため、いやいや参加したり消極的だったりする生徒はいなく、みな積極的に英語を使って会話をしたり活動に取り組んでいた。 ③対象学年を2年生にも拡大したことで、参加した生徒が次年度のホームステイ事業へ挑戦できるように2つの事業の連動を図ることができた。		
	B	【課題等】 ・外国の文化であるピニャータを作り、割るという活動があったが、地球や人物、愛と平和をテーマにしたピニャータを作ったグループがあり、それをバットで何度も叩き破壊するのは教育上よくないと考え、割らずに中身を取り出しても可とした。また、割る際にバット(棒)がすっぽ抜けるというアクシデントもあり、安全上の懸念と教育的配慮から次年度はピニャータに関するプログラムは廃止の方向で進める予定。	
外部評価	・昨年度より英語に興味のある2年・3年生を対象として、活動の充実を図ったことは良い取り組みだと思います。 ・英会話力を高め、自信をつけ、ホームステイ事業へつなげる事業として活動内容の充実を期待します。		
	B		

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	小学校集団宿泊学習	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	299千円	282千円	335千円
事業概要	21世紀を担う竹富町の子どもたちが、生まれ育った島をじっくり見つめ直し、郷土を誇ろうとする姿勢の育成を推進する。		
(1) 対象	竹富町内小学校5年生		
(2) 目的	①恵まれた自然の中でのびのびと過ごし、周りの草木や小動物等にふれあい親しむ。 ②竹富町内の小学5年生が寝食を共にすることによって、友人を増やし友情を深め合う。 ③お互いの島の様子や竹富町の様子を知り、郷土に対する理解を深める。		
(3) 事業内容	①集会活動(オリエンテーション、レクリエーション、班会議、平和学習) ②体験活動(カヌー体験、野生動物保護センター見学、星空観察)		
(4) 成果目標	①島外と同級生と交流を持たせることによって、コミュニケーション能力を育成する。 ②体験活動を通して、道徳観・正義感を育成するとともに、生きる力を身につけさせる。 ③平和学習を通して、命の尊さについて理解を深める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> ①少人数の各離島の児童にとって、大勢の同学年の児童と寝食を共にし交流する貴重な機会となった。 ②自分たちの学校や地域の様子を発表しあうことにより、お互いの島の様子や竹富町の様子知ることができた。 ③様々なプログラムにより、友情の輪を広げ、西表島の大自然に親しむ機会となった。		
	<b>【課題等】</b> ①交流センターの調理に時間がかかり、その後の行程にも影響があったため、調理員の増員が必要。 ②新しいプログラムである星空観察で、望遠鏡が1つしかなかったため、全員が見るのにかなり時間を要した。次年度は複数台用意するか、望遠鏡は無しにする必要がある。		
A			
外部評価	・町内の5年生が、寝食を共にし集団生活を通して友情を深め、発表力・表現力を高める良い機会である。実践までの企画立案等々において厳しい事もあるだろうが、本事業の持つ価値は高い。 ・「郷土を愛する心」を育てるために各島々の自然体験、社会体験、生活体験を数多くさせる事が大切である。 ・交流センターの調理員は、宿泊者数の多い団体の場合に補充対応ができるよう考慮する必要がある。		
	A		

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	ICT支援員派遣事業(一括交付金)	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	3,244 千円	4,752 千円	5,981 千円
事業概要	教育現場のICT機器の保守調整のために、業者へ委託契約し、ICT支援員を各小中学校へ派遣する。		
(1) 対象	竹富町内全小中学校		
(2) 目的	児童生徒の学習意欲等の向上を目指し、教育用PC・電子黒板・タブレット等のICT機器を効果的に活用した分かりやすい授業の実現するため、支援員を派遣し保守調整を行う		
(3) 事業内容	①ICT機器のメンテナンスや、管理・運用に関する助言 ②ICT機器に関する教員向けの研修 ③ICT機器の活用実績の集計、分析及び教育委員会への定期的な報告		
(4) 成果目標	①授業で使うデジタル教材などの準備がスムーズにできる ②ICT機器、校内ネットワークの保守調整ができる ③情報モラルの指導ができる		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> 沖縄振興特別推進交付金を活用し、各校へICT支援員を派遣した。各校では日常的に発生する機器に関するトラブル対応に関する助言や、授業へのICT機器の活用促進に向けた教員向けの研修会や個別指導などを精力的に実施し、教員のICT機器に関する習熟度は向上していると感じる。また、児童生徒もICT機器を活用した授業は分かりやすいとのアンケート結果も出ており、本事業の効果が現れている。		
	A	<b>【課題等】</b> 本事業は、平成26年度から5カ年計画で一括交付金を活用し実施してきた。支援員を派遣した5カ年で教員のICT機器に関する習熟度は向上し、事業は本年度で終了となる予定であったが、各校からの強い要望もあり、令和元年度においても事業を継続している。 今後も予算確保や事業継続も含め、より一層の教員のICT機器に関する習熟度向上に努める必要がある。	
外部評価	・ICT機器に関する教員向けの研修を各校で行い、整備されているICT環境の有効活用がなされた事は高く評価できる。 ・昨年で一括交付金活用事業5ヶ年計画を終えたが、各校からの強い要望で令和元年の予算がついた事は高く評価する。		
	A	・ICT機器を設置し有効活用、整備等維持管理するためには、支援員の配置は絶対条件だと考える。今後も予算確保に努め、支援員配置の継続を強くお願いしたい。	

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	家庭学習支援モデル事業(一括交付金)	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	38,253 千円	4,956 千円	0 千円
事業概要	小中学生を対象に質の高い学習方法を子供達へ提供するため、学校8拠点においてWeb会議システムを用いたオンライン双方向授業を行う「町営学習塾」を開設する。		
(1) 対象	小学校5年生～6年生、中学校1年生～3年生		
(2) 目的	へき地ゆえの大きな課題である教育環境の格差を解消し、中央と同じ授業を受けることが出来る環境を整え、家庭学習の定着や学力向上を目指す。 また、複数の拠点で同時授業を行うため、他の地域との交流促進や相乗効果を図る。		
(3) 事業内容	町内の9拠点と遠隔地(東京)をテレビ会議システムを利用した双方向ライブ授業を行う。講師は東京大学の学生が務め、子ども達の良いモデルとなっている。		
(4) 成果目標	①町営塾の開講 ②受講率60%以上 ③月例テストにおける全国平均点と本町の平均点の差が-13点以内		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> 9拠点中8拠点において、町営塾を開講することが出来た。 受講率においては37%と、目標を大きく下回った。要因としては、前年度同様に地域行事や部活により塾に参加できない児童生徒が多かった。 町営塾において実施する月例テストの平均点の差については、-15点差と僅かに目標にとどかなかった。		
	B	<b>【課題等】</b> 前年度からの課題であった参加率の向上に向け、広報誌への掲載やチラシの定期的な配布など周知活動を精力的に実施したが、参加率は前年度から変わりは無かった。 また、各拠点において現場から本事業を支える、現場支援員の確保が難しく、ある拠点については支援員が確保できない為、年度途中で閉講となる事案も発生した。 参加する児童生徒やその保護者からは好評であったが、本事業を総合的に勘案し、一度事業を見直す為、本事業は今年度で終了する決定を下した。	
外部評価	・町内8地点においてテレビ会議システムを導入した町営塾開講は新しい取り組みで画期的である。しかし、内部評価(課題)や、予算面からみても終了決定はやむおえない。 ・各島々には、学習塾が充実しておらず家庭学習支援がとても重要であると考え。放課後や休日に児童生徒が一堂に会し、見てくれる、教えてくれる大人がいる、そんな学習支援の場づくり等々を検討願いたい。		
B			